

陽道駅家跡の遺跡現地にバスで出かけ、古代山陽道の路線をたどったり、遺跡の立地や現地に残る基壇や築地塀の痕跡とみられる土塁などを観察したことは、駅家の構造や官道のあり方を理解する上で大変大きな収穫であったと好評でした。

(埋蔵文化財センター 山中敏史)



兵庫県上郡町

落地遺跡での臨地講義

#### 発掘技術者研修「交通遺跡調査課程」

2002年10月23日～30日(8日間)の研修は、近年検出例が増加している道路遺構の構造や発掘調査上の留意点を習得してもらうとともに、古代の水陸交通体系やその諸施設に関わる専門的知識を身につけてもらい、交通関係遺跡・遺構をどう位置づけるかという糸口を得てもらうことを目的としたもので、今回初めて企画した研修で、かなり特殊な限定的な内容の研修でしたが、16名が受講しました。

カリキュラムには、「道路遺構の構造と調査上の留意点」「郡衙遺跡と交通」、北陸や関東・九州の事例報告などの考古学サイドの講義とともに、「古代の交通システム概論」「歴史地理学と交通路」など文献史学・歴史地理学という関連分野からの講義をも加え、また、座学ばかりでなく、兵庫県龍野市小犬丸遺跡や上郡町落地遺跡という山陽道駅家跡の現地に出かけた臨地講義も組み入れました。

研修生はそれぞれ交通遺跡の調査研究に関心を持って参加しただけに、熱心な受講態度でした。

研修内容は、少し時間の足らなかった講義もありましたが、有意義との評価を得ました。とくに、山